

「色に関する用語検討」に協力を

色彩用語改訂準備委員会 委員長 鈴木恒男

J I S Z 8105 「色に関する用語」は1961年に制定され、1982年に改正が行われているが、それ以降実質的な検討がなされていない。色彩学の進歩に伴い、用語の改変が必要であるが、それが行われていないのが現状である。さらに、C I E I L V : I n t e r n a t i o n a l L i g h t i n g V o c a b u l a r y 2<sup>nd</sup> E d i t i o n が2016年出された。これらの状況を踏まえて色彩学会としては色彩用語の整備が早急に必要であると思われる。この色彩用語の整備は多くの学問領域が共同で活動する色彩学会での問題として、同じ用語でありながら各学問領域でその使い方が異なるとの問題もあり、色彩学会学会誌に投稿する際に使用する用語の基準を明確とする用語集もできていないので、その整備が必要であるのが現状である。

このような状況から、J I Sの色に関する用語の改訂準備段階として、色彩学会の使用する用語の問題点を洗い出し、その統一を目指し、J I S Z 8105 「色に関する用語」の改訂準備委員会を設立し、1年程度で活動をまとめ、その結果からJ I Sの色に関する用語の検討委員会に移行する。

色彩用語改訂準備委員会の活動は学会全体の活動としてとらえ、ホームページ、及び学会誌で色彩用語に関する意見を広く公募して、さらに各研究会にこの活動への協力を要請する。

J I S 「色に関する用語」は大きく分けて3つの分野に分けられ、1) 主に測光及び材料の光学特性に関する用語が62語、2) 主に測色に関する用語が106語、3) 主に視覚に関する用語が65語である。新しいC I E I L Vは1) Radiation, quantities and units が113語、2) Colorimetry が86語、3) Vision, colour rendering が125語である。色彩学会編で刊行された色彩用語事典では1230語が取り上げられている。

準備段階として、現在意識しないで使用されている色彩に関する用語を見直すことから始めるが、これは意識しないで使用しているのであまり考えることはないであろうが、例えば、J I Sの「色に関する用語」では色と色彩を同じ意味として定義しているが、この使用法に疑問を持っている人は居ないだろうか、自分は色と色彩はこのように使い分けているという経験はないだろうか。また、「色に関する用語」では規定されていないが、色材と色素をどの様に定義して使用しているのだろうか。「色に関する用語」で単色光刺激を一つの単色放射からなる(色)刺激と定義しているが、これは単波長光刺激のことであり、単色との言葉は誤解を招くのではないか。

このように色彩学で使用されいえる言葉の問題点を個人レベル、研究会レベルで考えて頂き、それを学会本部にEメール、または手紙で送っていただきたい、それを改訂準備委員会で検討し、色彩学会として統一的に使用する用語、J I Sに採用する用語の選定を行いたい、ぜひ学会員のご協力をお願いします。

提案は、現在の用語に関する疑問、新しく用語に採用したい言葉の2種類である。新しい用語は、用語の日本語、可能ならば対応英語、用語の簡単な定義を書いて頂きたい。情報を出す際は、誰が出したかを明記し、匿名での情報は原則受け付けない。ただし、誰が提案したかは公表することはない。J I S「色に関する用語」はホームページに掲載する予定である。

あて先は

Eメールは [jis-color-vocabulary@color-science.jp](mailto:jis-color-vocabulary@color-science.jp)

手紙は 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-42

一般社団法人 日本色彩学会 色彩用語改訂準備委員会 宛

寄せられた内容は委員会で整理して、順次学会誌とホームページで公開し、その内容に関してさらに意見を募集することを行い、色彩学で使用する用語に関する関心を高め、学会員共通の色彩学に関する用語を確立することを目標として活動を進めていきたい。

J I Sの改訂でこのようなスタイルをとることは初めてであるが、J I Sに関する関心を高めると同時に日ごろ使用する色彩学の用語の統一を図ることの重要性を認識することも目指すものである。その其の為には、学会委員の多くの方のご協力が不可欠であるので、どうかご協力をお願い致します。